

文献表示

特開2008-259758

文献表示画面の表示形式： テキスト表示 PDF表示
一次文献 | [PAJ](#)

書誌

閉じる

(19)【発行国】 日本国特許庁(JP)
(12)【公報種別】 公開特許公報(A)
(11)【公開番号】 特開2008-259758(P2008-259758A)
(43)【公開日】 平成20年10月30日(2008.10.30)
(54)【発明の名称】 刺激応答計測装置及び刺激応答計測方法
(51)【国際特許分類】
A 6 1 B 5 / 1 6 (2 0 0 6 . 0 1)
A 0 1 K 6 7 / 0 0 (2 0 0 6 . 0 1)
A 6 1 M 2 1 / 0 2 (2 0 0 6 . 0 1)
【 F I 】
A 6 1 B 5 / 1 6 3 0 0 Z
A 0 1 K 6 7 / 0 0 D
A 6 1 M 2 1 / 0 0 3 2 0

【審査請求】 未請求
【請求項の数】 7
【出願形態】 O L
【全頁数】 22
(21)【出願番号】 特願2007-106313(P2007-106313)
(22)【出願日】 平成19年4月13日(2007.4.13)
(71)【出願人】
【識別番号】 504258527
【氏名又は名称】 国立大学法人 鹿児島大学

(74)【代理人】
【識別番号】 100090273
【弁理士】
【氏名又は名称】 國分 孝悦

(72)【発明者】
【氏名】 口岩 聡

(72)【発明者】
【氏名】 口岩 俊子

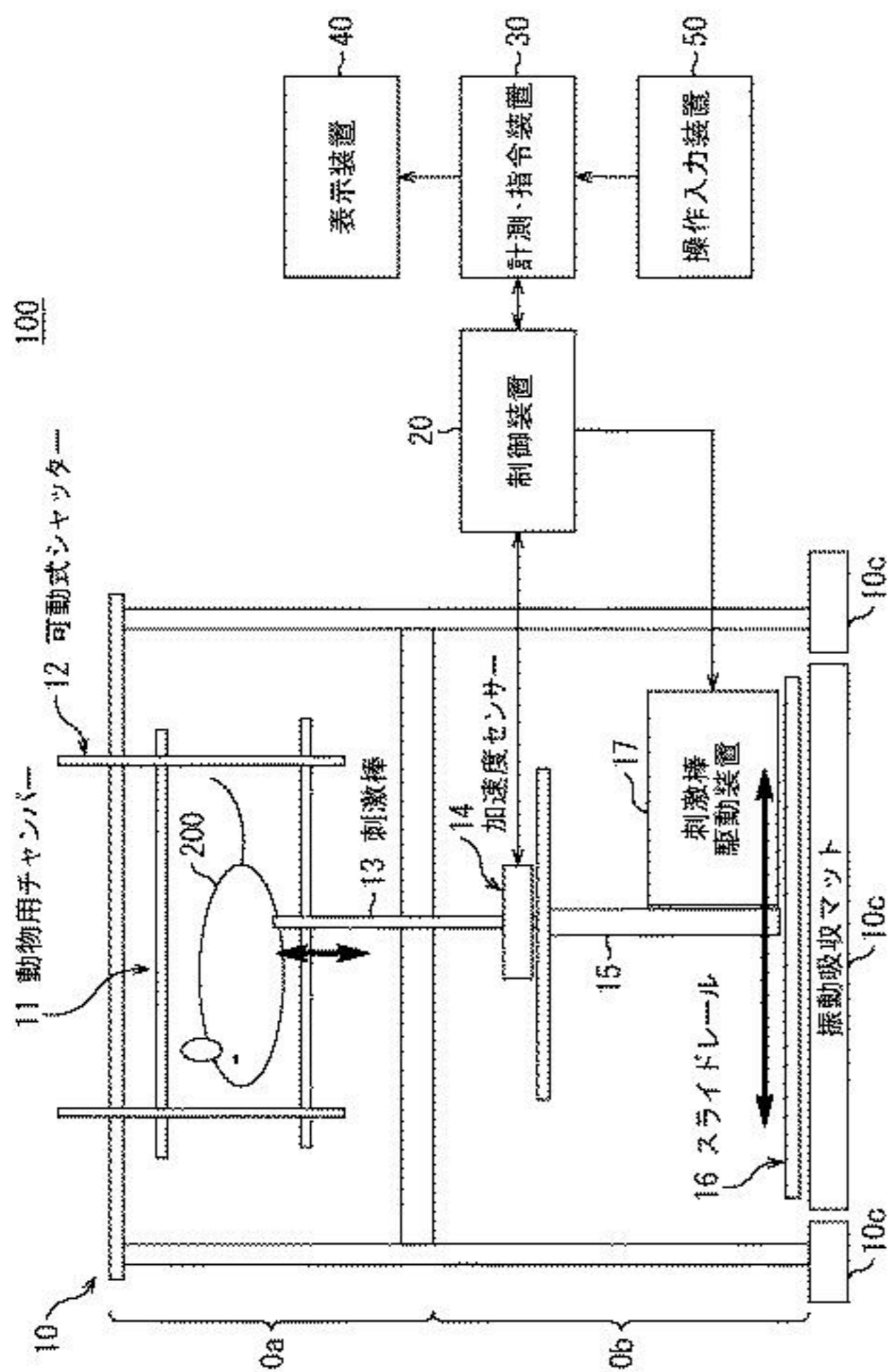
【テーマコード（参考）】
4 C 0 3 8

【Fターム（参考）】
4C038VA17
4C038VB40
4C038VC11

要約

閉じる

(57)【要約】
【課題】 動物の鬱状態の定量的な評価を実現できるようにする。
【解決手段】 被計測対象動物200に対して刺激棒13で刺激を与え、被計測対象動物200が刺激棒13に対して起こした行動に基づく振動を加速度センサー14で検出し、この加速度センサー14で検出した振動に基づいて、被計測対象動物200の刺激棒13による刺激に対する応答量を計測・指令装置30で計測するようにする。これにより、被計測対象動物200の鬱状態を定量的に評価することが可能となる。
【選択図】 図2



請求の範囲

閉じる

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被計測対象動物に対して刺激を与える刺激棒と、
前記被計測対象動物に前記刺激棒による刺激を与えた際に、前記被計測対象動物が前記刺激棒に対して起こした行動に基づく振動を検出する検出手段と、
前記検出手段で検出した振動に基づいて、前記被計測対象動物の前記刺激に対する応答量を計測する計測手段と
を有することを特徴とする刺激応答計測装置。

【請求項2】

前記検出手段は、前記被計測対象動物が、前記刺激棒を払い除け又は前記刺激棒に噛み付いた際に、当該刺激棒に生じた振動を検出することを特徴とする請求項1に記載の刺激応答計測装置。

【請求項3】

前記検出手段は、前記被計測対象動物が前記刺激棒に対して起こした行動に基づく振動を誘導電流として検出する加速度センサーから構成されており、
前記加速度センサーは、前記刺激棒に取り付けられていることを特徴とする請求項1又は2に記載の刺激応答計測装置。

【請求項4】

前記被計測対象動物を収容する動物用ケージと、
前記動物用ケージ内の前記被計測対象動物に対して前記刺激棒を駆動させる刺激棒駆動手段と、
前記計測手段により計測された前記応答量を表示する表示手段と
を更なることを特徴とする請求項1～3のいずれか1項に記載の刺激応答計測装置。

【請求項5】

前記刺激棒駆動手段による前記刺激棒の駆動速度を85mm/s以下とすることを特徴とする請求項4に記載の刺激応答計測装置。

【請求項6】

前記刺激棒駆動手段による前記刺激棒の前記被計測対象動物に対する刺激の刺激時間を2分以内とし、当該刺激の刺激回数を12回以内とすることを特徴とする請求項4に記載の刺激応答計測装置。

【請求項7】

被計測対象動物に対して刺激棒を用いて刺激を与える刺激ステップと、
前記被計測対象動物に前記刺激棒による刺激を与えた際に、前記被計測対象動物が前記刺激棒に対して起こした行動に基づく振動を検出する検出ステップと、
前記検出ステップで検出した振動に基づいて、前記被計測対象動物の前記刺激に対する応答量を計測する計測ステップと
を有することを特徴とする刺激応答計測方法。

詳細な説明

開く +

図面

開く +

拡大および回転



図5